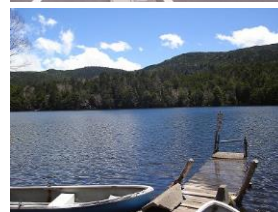


## 平成29年(2017年)佐久地域県政おもなできごと

月	内 容
4月	<p><b>佐久地域振興局・東信県税事務所が発足</b>  <b>【佐久地域振興局(総務管理課・企画振興課)・東信県税事務所】</b></p> <p>地域の課題をスピード感を持って主体的・積極的に解決するため、佐久地方事務所は佐久地域振興局となりました。地域振興局では、局長のリーダーシップのもと、地域課題を県の現地機関が連携して部局横断で解決するため、「地域振興会議」を設置しました。</p> <p>これに伴い、全県的な共通性や専門性が求められる税務業務については独立して東信県税事務所となりました。また、まちづくりや災害対応を建設・建築部門が一体で対応するため、建築課の業務は佐久建設事務所に移管されました。</p> 
6月	<p><b>佐久市の農業用ため池の耐震化事業に着手【佐久地域振興局(農地整備課)】</b></p> <p>耐震性を有していない佐久市の「大池」及び「立科の池」の農業用ため池について、耐震化事業に着手しました。</p> <p>本事業により地震時の農地106ha、家屋26戸等の被害を未然に防止します。</p> <p>事業名 県営農村地域防災減災事業 佐久市地区          総事業費 1億8百万円          工期 平成29年度～平成31年度</p> 
7月	<p><b>佐久地域の公有林25千㌦SGEC森林認証を取得しました!</b>  <b>【佐久地域振興局(林務課)】</b></p> <p>佐久地域の市町村、財産組合及び県営林の11団体が「～信州カラマツの故郷～ 佐久森林認証協議会」を設立して、25,234.17haがSGEC森林認証森林となりました。</p> <p>(2017年7月1日効力発行 認証番号JAFTA-080 認証期間H29.7.1～H34.6.30(5年間))</p> 
6月 ・ 7月	<p><b>さくっと「ずく出す」プロジェクトがスタート</b>  <b>【佐久地域振興局(商工観光課)・佐久保健福祉事務所・東信教育事務所・佐久建設事務所】</b></p> <p>佐久地域の皆さんが、生涯を通じて今より「ずく」を出し、からだを動かすことで、身体活動の向上、運動習慣の定着を図り、元気で長生きができることをめざす「さくっと『ずく出す』プロジェクト」がスタートしました。</p> <p>そのキックオフとして、6月22日には地域企業が研究開発を進めてきた「ロコモリスク評価装置」の開発発表会を開催しました。当日は約30名の参加者がロコモリスクの計測を体験し、測定後に健康運動指導士による結果説明を注意深く聞いていました。</p> <p>7月25日には関係機関・団体等が一丸となって身体活動の向上・運動習慣の定着に取り組むことができるように、ネットワーク会議を設置するとともに12月22日から、地域でシニア世代の皆さんが自ら運動に取り組み、運動に関する知識や情報を地域に伝える「ずく出すサポーター」の養成講座を開始しました。</p> <p>また、6月には働く人々がスポーツ活動に、より親しみ・楽しめる環境を整備するため、企業が主催する従業員を対象とした健康福祉事業に対し、「働き盛りのための運動セミナー」として支援を開始しました。</p> <p>関連して、「白樺湖」を活かした戦略的まちづくりの一環として、「健康・運動」という観光コンセプトのもとで、茅野市及び立科町とともに整備を進めている白樺湖を一周するジョギングロード(全体L=3.8km)のうち、県の担当区間(全体L=0.9km)のうち、0.8kmを整備しました。</p>  

月	内 容
7月 ～ 9月	<p><b>信州デスティネーションキャンペーンを開催【佐久地域振興局(商工観光課)】</b></p> <p>「世界級リゾートへ、ようこそ。山の信州」をキャッチフレーズに、7月1日から9月30日までの間、「信州デスティネーションキャンペーン」を実施しました。</p> <p>全国から訪れる観光客に楽しんでいただくため、市町村では様々なイベントを開催しました。その中で、交通渋滞が予想された「白駒の池・苔の森」では地元自治体と県関係機関等が連携し、シャトルバスの運行や案内看板の設置などの態勢を整え、目立った渋滞はなく観光していただくことができました。</p> <p>また、小海線では初の観光列車「HIGH RAIL 1375」が運行され、7月1日の出発式では管内市町村の特産品を乗客へプレゼントしました。この「HIGH RAIL 1375」やしなの鉄道の「ろくもん」等には沿線の園児・小学生・シニア大生等約2,500人が手を振って、観光客をおもてなしました。</p>
9月 ・ 11月	<p><b>道路整備が進む 【佐久地域振興局(農地整備課)・佐久建設事務所】</b></p> <p>佐久地域では、道路網の整備が進んでいます。</p> <p>9月13日には、工事を進めている佐久南部広域農道のうち、小海町豊里の町道小倉原線から県道松原湖高原線までの区間 3.9Kmが完成し、供用を開始しました。</p> <p>今回の開通により、供用済みの7.0kmを含めると約11kmが完成し、地域の農産物輸送や生活交通の利便性向上に寄与しています。</p> <p>11月7日には、平成25年度から工事を進めてまいりました、主要地方道佐久小諸線 佐久橋が、また、平成11年度から整備を進めてまいりました一般国道142号 佐久市跡部地区から岸野地区の全線約3.0km間の4車線化拡幅工事がそれぞれ完成し、供用を開始しました。</p> <p>これにより、佐久橋は、6トンの車両重量制限がなくなり大型車両も通行できるようになりました。併せて歩道整備を行い、歩行者の安全が確保されました。</p> <p>一方、一般国道142号線の拡幅は、中部横断自動車道開通に伴う交通量増加への対応や、歩行者の安全確保、インターチェンジへのアクセス機能強化はもとより、更なる物流や広域交流の促進に大きく寄与するものと期待されます。</p>
10月	<p><b>「2017環境フェアin佐久」を開催【佐久地域振興局(環境課)】</b></p> <p>9月30日～10月1日の2日間に亘り、家畜改良センター長野支場ふれあい広場において、環境保全に関する取組を紹介し『つなげよう！未来の子らに エコライフ』をテーマに、豊かな環境づくり佐久地域会議と県の主催により開催しました。</p> <p>自然エネルギー関連設備の紹介や人力発電によるかき氷作り、エコキッズツアー等のイベントの他、ソーラーカーの試乗体験や燃料電池ミニカーの工作、椅子や鳥の巣箱等の木工クラフト工作、マイエコバッグづくり等、全29の出典団体のブースにより、約15の体験・参加プログラムが行われ、約6,800人に来場いただきました。</p>



月	内 容
10月	<p><b>佐久地域の特色ある農産物の産地巡りと地元食材を活用したメニュー・地酒の提案会の開催【佐久地域振興局(農政課・商工観光課)】</b></p> <p>佐久地域を訪れる国内外の観光客にもっと地元食材・地酒を食していただくこと、ホテルの経営者や料理人等を対象に、ブロッコリーやレタス・パクチー、プルーン生産者の畑に出向いて、生産している状況を見てもらうツアーを開催しました。ツアーに引き続き、軽井沢町内のホテルに移動して地域の食材を積極的に活用してもらうため地元食材を使った料理を紹介したり、料理に合う地酒の提案を行いました。</p> <p>参加者からは、「生産者の方と直接話ができ良かった。」、「新鮮な野菜をいただいて、食材の良さを改めて知った。」、「料理によって味も変わり、佐久の地酒の認識が変わった。」等満足した企画であったとの意見をいただき、地消地産の推進に向け一歩進むことができました。</p> 
10月 ・ 12月	<p><b>佐久地域の美しい星空を活かしたイベントを開催【佐久地域振興局(環境課・商工観光課)】</b></p> <p>10月21、22日に、第29回「星空の街・あおぞらの街」全国大会が、高円宮妃殿下の御臨席の下、南牧村で開催されました。この大会は、大気環境保全を考え、郷土の環境を活かした地域づくりを進めるため、毎年、日本各地の環境の優れた街で行われています。長野県での開催は王滝村、佐久市、松本市に続き4回目となり、全国から関係者、県民約200人が参加して盛大に開催され、南牧南小学校等の星空観察報告等、長野県・南牧村の星空・あおぞらの魅力をPRしました。</p> <p>また、10月21日と12月9日には、佐久地域の小中学生を対象に「佐久地域における星空観賞会」を開催し、うすだスタードームや国立天文台野辺山宇宙電波観測所を見学し、身近な星空を楽しみました。10月は雨模様で星は見えませんでした。ベジタボール・ウィズで星空案内人等から宇宙や星座について学びました。12月はうすだスタードームで満天の星空を鑑賞できました。</p> <p>参加した57人の小中学生には、当日の体験をいつまでも覚えていられるよう絵日記にまとめてもらい、市町村庁舎や商業施設等で紹介するとともに、当日の写真等を記念品として贈る予定です。</p> <p>当地域が取り組む「美しい星空を活かした観光地域づくり」を進めるため、大人になり佐久を離れても「美しい星空」をPRし続けてもらえると期待しています。</p>   
通年	<p><b>不順天候を乗り越えた農業生産【佐久農業改良普及センター】</b></p> <p>今年は、3月～4月の低温・積雪、6月の突風や降雹、9月・10月にはあいついで台風が襲来し、果樹や飼料作物、園芸施設で被害がありました。また、低温や高温干ばつ、日照不足、多雨などの不順天候で大変苦勞の多い年でした。</p> <p>こうした中、果樹や花きの一部品目で品質低下や収穫量が若干減ったものの、水稻は作況指数102(東信地域)となり、特産のレタスやはくさいなどの野菜は、豊作基調で全般的には平年並み以上の作柄となりました。</p> 